

2011年度「スラブ・ユーラシア地域(旧ソ連・東欧)を中心とした総合的研究」(共同利用型)
成果報告

現代ロシア社会の変遷とその下での子ども特に乳幼児の現状に関する研究

村知稔三(青山学院女子短大子ども学科)

【申請内容】

ロシアにおける乳幼児の暮らしと保育の歴史的研究を主要なテーマとする申請者は、副次的に、ソ連解体後の現代ロシア社会における子ども、なかでも乳幼児をめぐる現状の追跡という課題に従事している。本研究では、北海道大学スラブ研究センター図書室と同大学附属図書館で購読中の、電子化されていない雑誌や統計書を閲覧・分析し、上記の課題に迫ることにした。それによって、日本ではもちろん、英語圏や本国ロシアでも比較的に研究が手薄な現代ロシア社会における人々の生活、なかでも若年の親とその子どもの暮らしの一側面の解明が期待できる。

【利用内容】

申請者は2012年2月24～28日と3月30～31日にセンター図書室と附属図書館を利用した。そのほか、別のプログラムで2011年8月1日～9月2日にも同じことが可能となった。

その間に閲覧できたロシア語雑誌としては、『統計学の諸問題』『経済学の諸問題』『社会学研究』『社会と経済学』『ロシア科学アカデミー紀要—地理学編—』『ロシア連邦統計局季刊誌 統計学概観』『モスクワ大学紀要—経済編—』『サンクトペテルブルク大学紀要—経済編—』『教育学』などの近年の巻・号である。そのほかロシア連邦統計局が刊行している数種類の全国統計書(一部は電子化済み)と代表的な地方統計書にも目を通すことができた。なお、電子化されている欧文雑誌については、附属図書館のリモートアクセスの機能を使って、上記の期間以外に勤務先などで利用した。

【成果】

閲覧できた資料などを用いて、白梅学園大学(東京都小平市)が主催する「第5回白梅子ども学講座<世界の子ども政策から学ぶ>」において、「体制転換後のロシアにおける保育改革——家庭養育の重視と市場経済化の進展——」と題した報告を行ない、関心を抱く保育関係者との間に熱心な質疑が続いた。さらに、その内容を補充・訂正した論稿が、「体制転換後のロシアにおける出生動向と保育改革」と改題のうえ、『白梅子ども学叢書』第5号(2012年6月刊行予定)に掲載されることになっている。